

新任部長・副部長紹介



呼吸器科部長
塩崎 晃平



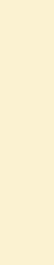
腎臓・泌尿器科部長
片野 健一



眼科部長
片野 潤



麻酔科部長
白塙 秀之



神経内科副部長
今村 久司

卒業年次／平成3年
資格／日本内科学会認定医、日本呼吸器内視鏡学会専門医、日本アレルギー学会専門医、日本禁煙学会専門医

卒業年次／平成7年
資格／日本内科学会認定医、総合内科専門医、日本腎臓学会腎臓指導医、専門医、日本透析医学会指導医・専門医

卒業年次／平成8年
資格／日本眼科学会専門医、加齢性黄斑変性症の光線力学療法認定医、福井大学臨床准教授、福井大学医学博士、近视矯正術認定医、視覚障害者用補装具適合判定医師

卒業年次／平成8年
資格／日本麻酔科学会専門医、指導医、厚生労働省麻酔科標準医、抗菌化学会療法認定医、日本体育協会認定スポーツドクター

卒業年次／平成14年
資格／日本内科学会認定医、日本神経学会認定神経内科専門医、日本てんかん学会認定専門医

新任スタッフ紹介



地域医療連携課長
斎藤 裕一

平素より連携医の先生方には、当院の地域医療連携業務に格別のご協力、ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。患者さんを中心に連携医の先生方と共に連携しながら地域医療の発展に貢献できるよう取り組んでまいりますので、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

行事予定のご案内

第2回消化器カンファレンス

日時／平成26年5月24日(土)15:30～

会場／福井商工会議所 B1「国際ホール」

地域医療連携課までお申込みください。



開催報告

地域医療連携交流会

平成26年3月7日(金)ユアーズホテルにおいて地域医療連携交流会を開催しました。山本医院院長 山本雅之先生とひらい内科消化器科院長 平井圭彦先生に座長をお務めいただき、腎臓・泌尿器科副部長 片野健一より「先生、せっかく入院したのに腎機能が悪くなったじゃないですか～慢性腎臓病教育入院を実際にやってみて初めて判明した短期的な臨床検査値推移の特徴～」、外科部長 川上義行より「最新の低侵襲外科治療；細径鉗子併用による内視鏡外科手術～Reduced Port Surgery～」と題して、2つの話題提供をさせていただきました。院内外の約60名の先生方にご参加いただき、盛会に会を終了することができました。今年度も、さらに充実させた内容で先生方に満足いただける話題提供ができるよう努力してまいります。今後も、「顔の見える連携」を趣旨とした会への参加をお待ちしております。

地域医療連携課

受付時間／平日 8:00～18:30

土曜 8:30～12:30

TEL 0776・36・4110(直通)

FAX 0776・36・0240(専用)



福井赤十字病院

<http://www.fukui-med.jrc.or.jp>

e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第50号発行
平成26年4月
福井赤十字病院



Partner

Japanese Red Cross Fukui Hospital

パートナー vol.050

平成26年4月発行

ボランティアさんの作品

Topics トピックス

がん診療棟・腎センター(仮称)の建設に着工いたします!

当院は、当院の理念に基づき、地域の方が生活の質を維持し元気でいれるよう、また体と心に優しい医療を提供できるよう、昨年より検討を重ねてまいりましたが、いよいよこの春、新棟の建設に着工することとなりました。

総工費30億円(医療機器含む)をかけ、地域の急性期医療を担うために、更なる機能の充実が求められる中、放射線治療部、緩和ケア病棟、日帰り手術部門(術前・術後ケアセンター)などを設置いたします。面積5,421m²、4階建て構造、屋上には屋上庭園を設けます。

緩和ケアについては、地域とのつながりを大切にし、心と体に寄り添う緩和ケアを提供することで、最期までその人らしい生活が送れるように支援いたします。安心で切れ目のないがん療養者や家族の支援病棟として、症状緩和ケアを必要とするレスパイト入院病棟としても連携医の先生方からご利用いただける病棟です。

新棟は、快適な環境の中で過ごしていただける「癒し」と「ゆとり」を提供できるものと確信しています。平成27年2月末の竣工まで駐車場が狭くなるなどのご迷惑をおかけするとは思いますが、ご協力の程よろしくお願いいたします。



福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

皮膚科の取り組み



【皮膚科スタッフ】(左から)小川万里依 医師、福岡美友紀 副部長、加畠大輔 医師

当院皮膚科の特徴と取り組みについてご紹介致します。

① 円形脱毛症外来

円形脱毛症は、毛が円形に抜ける疾患です。人口0.1-0.2%に発生する頻度の高い疾患ですが、難治になる事も少なくありません。当院では一般的な治療に加えて、発症早期の重症な進行期円形脱毛症に対してステロイドパルス療法を、慢性の円形脱毛症に対して局所免疫療法(SADBE療法)を行っています。局所免疫療法とは、“かぶれ”を惹起することで免疫を変化させ発毛効果を期待する治療で、日本皮膚科学会ガイドラインでは推奨度が高く(推奨度B:行うよう勧められる)、当院でも良好な結果を得ています。しかしながらそれらの特殊性からパルス療法や局所免疫療法を行える施設は少なく限られているようです。当院では、難治性円形脱毛症に対して多様な治療選択肢をもち診療にあたっていますので、是非ご相談下さい。



当院薬剤部にて
調剤されるSADBE液

② 乾癬外来

乾癬は、慢性的に経過する代表的な炎症性角化症の一つですが、QOLを阻害し重症になることも少なくありません。近年、難治の方や関節炎を伴う方、膿疱

を伴う方などを対象に生物学的製剤における治療が行われております。当院は日本皮膚科学会に承認された生物学的製剤承認施設として多数の症例の治療を行っています。さらに働き盛りの方など平日に来院しにくい方に対して、病診連携による生物学的製剤の投与も行っています。

③ 皮膚外科手術

皮膚外科手術や、病理診断を目的とした多数の組織検査を行っています。大きな手術は中央手術室で行いますが、近年外来手術室を設置したことで小さな手術は迅速に熟練したスタッフと行えるようになりました。特に小さな傷ですむように工夫した手術や陥入爪に対する治療を行っています。

④ メイクアップケア外来

皮膚色素異常症に対するメイクアップケア外来を完全予約制で行っています。色素異常症とは、皮膚の色の変化を来す皮膚疾患の事をさします。代表的な疾患としては、尋常性白斑(白なます)、血管腫(赤あざ)、太田母斑(青あざ)などです。これらの疾患には様々な医学的治療が開発されておりますが、残念ながら治療の効果が出ない方や、治療の効果がでるまで時間がかかる方もおられます。このような患者さんにメイクアップで病変をカバーして頂き、生活の質の向上につとめています。

[文責] 福岡 美友紀

てんかん診療について



神経内科 副部長
今村久司

てんかんとは、てんかん発作を繰り返す病気の総称で、体質でなる特発性てんかん、脳に何らかの傷があり起こってくる症候性てんかんに別れます。さらに、ある部分から始まるのか、脳全体から始まるのかで、部分てんかんと全般てんかんに分けられます。治療や対処の仕方、改善する頻度もそれぞれで異なります。

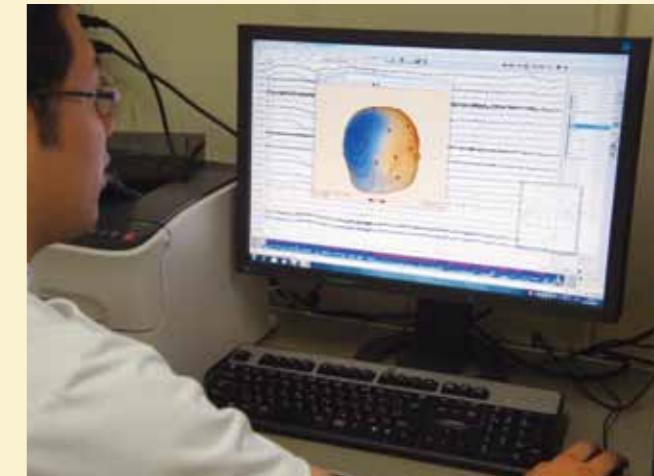
一般人口の100～200人に一人が罹患しており、比較的頻度が多い疾患です。福井県の人口は80万人ですから4000～8000人程度いるものと思われますが、てんかんを専門とする医師は不足しており学会の専門医は小生のみです。

てんかんを診療する上で、重要なのは問診です。脳波の判読も専門性が要求されますが、脳波が正常でも、てんかんは否定できません。てんかん特有の前兆や発作症候がありますので、本人や目撃者の情報からどのタイプのてんかんか絞っていきます。それを脳波やMRIで確認していくことになります。てんかんの治療は内服薬によるものが中心ですが、焦点切除術や迷走神経刺激術など手術による治療もあります。京都大学では、てんかんの講座が2013年に設立されました。当科は関連施設ですので、京都大学と連携して最適な治療を患者さんに提供できる体制となっております。

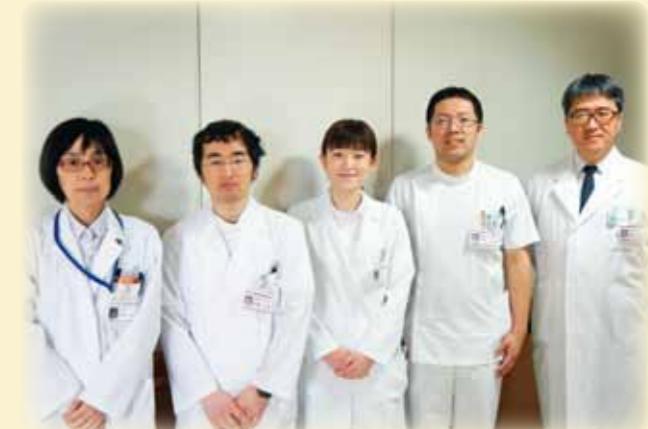
てんかんは小児や若い方ばかりではなく、高齢発症も多いです。けいれん発作がなく、一時的に、

ぼーっとして元に戻る、記憶が途切れるなどといった発作が多く、認知症と間違われていることもあります。

けいれんや意識消失発作、一時的に意識が途切れるなどでお困りの患者さんがおられましたら、日赤のてんかん外来にご紹介をよろしくお願ひ致します。



脳波を判読する今村副部長



【神経内科スタッフ】(左から)早瀬史子 医師、伏屋公晴 医師、齋藤有紀 医師、今村久司 副部長、高野誠一郎 部長